

ほのぼの

第13号

平成18年

7月

発行

神戸市須磨区戎町1-2-3

TEL 078-732-5209

信行寺門信徒会



(太子 16歳のお姿)

和国の教主聖徳王
 広大恩徳謝しがたし
 一心に帰命したてまつり
 奉讃不退ならしめよ

聖徳太子と浄土真宗

聖徳太子の肖像は、かつて一万円札に使われていたから、どなたでもよくご存じだと思います。この肖像は摂政をしておられたときのお姿です。

親鸞聖人は太子を「和国の教主」と称し、わが国におけるお釈迦様として崇拜されておられます。

太子は五七四年、用明天皇の第二皇子として誕生され、六二二年、四十九歳で崩御されました。

二歳の時に、東方に向かって「南無仏」と称えたと伝えられています。二十歳の時、おばにあたる推古天皇の即位により、太子は摂政として政治にあたられ、仏法興隆の詔を発せられました。太子は仏教に深く帰依し、法隆寺、四天王寺などのお寺を建てたり、お経の講義をするなど、仏教の普及につとめられるとともに、十七条の憲法を作り、「あつく三宝を敬え」と、政治の根本に仏教の「和」の思想を取り入れられました。

聖徳太子は、非常に徳の高いお方でしたから、太子を対象とする太子信仰ができてきます。奈良時代には、中国天台宗の第二祖、南岳の恵思禪師が仏教を広めるために生まれ替わって聖徳太子になられたといわれております。さらに、平安時代になりますと、太子は観音菩薩の化身として崇められます。ことに比叡山では、太子信仰が盛んで、さらに鎌倉時代になって太子信仰は最盛期を

迎えました。

十九歳のとき聖人は大阪・磯長の太子の御廟に参籠されて、あと「十年の命」であるとお告げを聞かれます。二十九歳のとき、悟りへのめどのつかないことに悩み、太子の創建と伝えられる京都の六角堂に百日の参籠を行います。九十五日目の暁、聖徳太子の夢告をうけて、後生の助かる縁にあうために、法然上人に会われ、「ただ念仏して弥陀に助けられまいらすべし」との教えを受けられました。

親鸞聖人は関東から京都に帰られる途中、各地の聖徳太子をご安置する「柳堂」で人びとに念仏を勧められておられますし、太子の徳を讃えるご和讃を作られています。また、「火宅無常の世界は、よろづのこと、みなもつてそらごとたはごと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにおはします」という聖人の言葉は、聖徳太子のお言葉を受けられたものです。

浄土真宗において太子のご影像を奉安するのは、日本に仏法僧の三宝を興隆して、仏法を広められたご遺徳に感謝するためです。

その太子のお姿は「十六歳の御影」、あるいは「父母孝養の御影」と称しています。有髪で、俗服に二十五条の袈裟を着け、立って、手に柄香炉を持って、仏恩を謝す「報恩の御影」と窺われます。



聖徳太子のお厨子ずしをお迎えして

五月二十六日、竹間威雄様の寄進による聖徳太子のお厨子がお内陣に安置されました。当日連絡を頂き本堂にて竹間様と姪御さんのお二人にお会いし、ここに至ったいろいろのことをお伺いすることが出来ました。

竹間様は昭和十七年に召集されて、中国の除州、次に南方のラバウル島へと転戦、この島で終戦を迎えられました。しかし当時は混乱し、日本の敗戦が信じられない

まま一年後に日本の特使の来島にて、初めて終戦を知り帰還された経験のお方です。

軍隊当時には輸送船の撃沈、又島では米軍機による急降下の狙撃等々、死と隣り合せの状態を五回六回と味わわれ、奇跡的に助かった自分の命を不思議と感じ、今日を生きていると、話されました。

折しも昨年は終戦六十年、今年は自分の生還六十年にあたる記念の年にあたり、又自分にかかわるすべての故人に対する想いもあり、奇進を申し出られたそうです。ありがたいことです。

長井輝子



「思い出の写真から」

長井輝子

昭和六十二年頃、御本山での念仏奉仕団の清掃奉仕の一コマです。前日が雨天だったため広大な百華園の落葉は箒木での作業がやりにくく手でかき集める方が早かったのを記憶しております。



念仏奉仕団に参加することで多くのことを学びました。御本山を身近に体験出来る喜び、又全国各地から上山される御同朋の御様子等、私にとっては心と体が浄化される二日間でもありました。

合掌

総会の模様

四月二十二日午後二時から、信行寺二階礼拝堂で六〇余名の出席者で総会が開催されました。早いもので今回は第五回目の総会を迎え、皆さま方のご協力を得て会員数も二六〇余名となりました。



総会は、「おつとめ」から始まり、「真宗宗歌」の合唱をして、谷川会長、藤本顧問のあいさつのあと、議事に入り、事業報告、事業計画、会計報告、会計監査報告、予算案などを審議し、それぞれ可決されました。

議事終了後、長井副会長のあいさつを経て、住職の「法話」を聴聞し、午後四時頃閉会しました。

平成十八年度の事業計画と新役員も紹介いたします。これからもあたたかいご支援をお願いし、この門信徒会がますます飛躍することを期待しております。
(月田)

◎ 事業計画

- (1) 寺報「ほのぼの」発行
年三回(7月、11月、3月) 発行予定
 - (2) 研修旅行
平成18年4月24日～25日
山陰の妙好人(善太郎・才市同行)を訪ねる参拝旅行を実施。
 - (3) 夏期特別法座(第24回)
平成18年8月17日の開催を決定。
 - (4) 本山念仏奉仕団(第23回)
平成18年10月30日(月)～31日(火)に決定。
- ◎ 「信行寺門信徒総会 役員名簿」
- ① 会 長 谷川俊雄
 - ② 副会長 長井輝子・松井 孝・月田幹雄
 - ③ 顧 問 長井瑛治・藤本哲郎・逢坂光豊
新田泰三・石田好光
 - ④ 総務委員 青木一江・小林元子・佐野春栄
新田光美・丸尾貞子・村田君子
萬 董子・渡辺由子・横田伊津子
 - ⑤ 企画委員
(寺報発行) 長井輝子・月田幹雄・森本 勝
泉井玲子
 - (研修旅行) 赤坂敏子・稲岡康好・田中尚子
(夏期特別法座) 川口昭次・金野和雄・久納恵弘
(念仏奉仕団) 赤坂亥才男・小林登志夫・川西泉夫
中川さなみ・谷川恵美子
 - ⑥ 会計委員 辻 英子・石田智子
 - ⑦ 監査委員 藤本園子・谷藤清子

研修旅行

山陰の妙好人を訪ねて

泉井玲子

異常気象で心配していた雨も、四月二十四日は晴天に恵まれ、大きな太陽が笑って見送ってくれ、バスは、一路山陰へと。



れ、宗学の研究に努力されておられます。次に、千田の浄光寺に参拝。妙好人の善太郎御同行ゆかりのお寺です。四十代から厳しい聞法と報謝行に生きぬき、独特の字で沢山の手記を残しています。人間に生まれた喜びと、み

路山陰へと。
先は、島根
県市木の浄
泉寺に参拝。
学問のお寺
として名利
で、仰誓、
履善、現住
職の三人が
和上をなさ

法に遇えた喜びの手記は、何やら光と、あたたかみを感じました。

人間は、人間らしくして、暮らせ、

親は、親らしゅうに。 この善太郎

この日の宿は、浜田市の国民宿舍千畳苑でした。

翌二十五日、温泉津の安樂寺に参拝。妙好人才市さんが、御念仏の体験を詩にしてノートに残されていました。その詩は、浄土真宗の信心の極地を示しています。聴聞こそが、第一だと味わわせて頂きましたが、御縁がなければ、お念仏に遇うことは、難しいのでしょうか。念仏一筋に生き抜いた妙好人の生きざまに、大変感動しました。バスにて、穴戸湖、大根島、松江城を車窓より見物して境港に出ました。駅前より、水木シゲルロードの妖怪キャラクターのブロンズ像を童心に返って楽しみなながら、神戸へと帰路に着きました。



台掌

『殺すな 生かせ』

6月3日(土) 神戸別院の土曜講座に信行寺住職の右の講題による法話がありました。冒頭声の調子がいつもと違うので、風邪でも引かれたのかと思われましたが、当日の朝、目を覚まされた時に、急に声が出なくなりました。声が出るのが当たり前、体が動くのが当たり前と、ふだん私たちが思っていることが、決して当たり前のことではないと、ご自身の身をもって示され、生かされている命の大切さを3時間余にわたって話されました。

最近の世相を見ておきますと、親殺し、子殺し、そして何の恨みもない他人を理由もなく殺すなど、人のいのちがこれほど軽く扱われていることや、さらに自らの命を殺すことなど、生と死にかかわる問題を取り上げて、生とは何か、死とは何かを親鸞聖人の他力の考えを基に、住職は熱く語られました。

当日は信行寺の門信徒会の皆さんも大勢参拝されて、住職の声を心配されての聴聞でした。

特に印象に残ったのは、与えられた時間(人の一生)を無駄にすることは、殺すことと同じで、命を①動物としての命②人間としての命③社会人としての命と分けて話されたことでした。私達がふだん気がつかずに過ごす凡夫のなりわいを顧みて、深く反省させられました。

人の悪口は面白い

人は自分の悪口を言われると怒りますが、他人の悪口をいう時は、楽しそうに話します。テレビのワイドショーはそのような人間の心理を巧みに利用しています。そして自分はそのような人間ではないと安心するのです。果たしてそうなんでしょうか。縁に会えば思いもせぬことをするのが人間です。常に自分はどうかを顧みることが大事ではないでしょうか。

———本当の金持ちとは？———

「貴方の一年を百万円で買います」と、ある金持ちに云われた時、貴方はどうしますか。自分の寿命が一年短くなっても、短絡に百万円目の前に出されれば、その誘惑に負けるかも知れません。検察に拘束される前のホリエモンは、「金さえあれば何でも買える」と豪語しました。

時間は金で買えるか

人間の欲は限りがありません。何百億、何千億儲けても、更に上を欲して儲けに走ります。そして投資家に配当する

のです。そして行き着く先が検察庁です。取材班に取り巻かれて、焦点の合わない虚ろな表情の彼らを見て、人間の幸せとは何かを考えさせられます。「自分は大丈夫と思ったりやせんか。自分は善いこと(善人)をしとると思ったりやせんかの」口癖の広島弁が、ぐさつと胸につきささってきます。

『ありがとう』の言葉について

川口昭次

信行寺の昨年十二月の『報恩講法要』での羽溪（はたに）了先生の法話を聴聞させて戴いた中で、次のお話に非常に感銘を受けました。

それは、先生の子供さん達による『ご飯の実験』と『水の実験』のお話でした。

『ご飯の実験』は、炊いたご飯を二つのガラスの瓶に入れて密封し、その一方の(A)には『ありがとう』と毎日声をかけ続ける。そして、もう一方の(B)には『ばかやろう』と毎日声をかけ続ける。その結果段々と日数がたつと(A)は発酵(還元)して麴になってしまいが、(B)は腐敗(酸化)して黒くなってしまふ……。

『水の実験』は、同じ水を二つのガラスの瓶に入れて、(A)の方には『ありがとう』を、(B)の方には『ばかやろう』の声をかけ続ける。その結果(A)は綺麗な結晶体を見せるが、(B)は綺麗な結晶体とならない……。

これは、如何に『ありがとう』感謝』という言葉が大切であるかを物語っています。

私が最近読んだ『水は答えを知っている』という本（江本勝著）に、同じ水を入れたガラス瓶の、片一方には『ありがとう』と書いた紙を見せて置き、もう片一方には『ばかやろう』と書いた紙を見せて置く。その結果、特殊な方法で撮影した顕微鏡のカラー写真では、『ありがとう』の方は非常に綺麗な氷結晶体を見せるが、『ばかやろう』の方はバラバラに砕けて綺麗な氷結晶体を作らない……。

これらの事に関連して、後日、米田住職が『お寺の本堂には、お念仏の声（仏恩報謝の声）が満ちているので、とても清々しい気持ちになれる。これは、羽溪先生のお話の通りです』と述べられました。

これからは、何事にも『ありがとう』と言葉に出して、感謝の心での日暮らしに勤めたいと思います。

（参考）羽溪先生は、福井県若狭の明應寺の住職で、神戸女子大学の助教授です。



みやび会 真宗報恩まつりに出演

平成十八年五月二十六日に第33回「真宗報恩まつり」が、神戸文化ホールで開かれました。当信行寺のコーラスみやび会も合同音楽祭に出演、



日頃の練習の成果を披露しました。午後一時式典の幕が上がると、六字名号の祭壇を中央に並ぶコーラス

の皆さん。みやび会11名は右手に。

讃歌「いちいちのはな」に始まり「真宗宗歌」「さんだんのうた」「念仏」「恩徳讃」と客席を交えての合唱に式典は厳粛に進んでいきました。第二部の記念法話は、「心を弘誓(くぜい)の仏地に樹て」と題して鈴木善隆師(明楽寺住職)のお話。難しい講題に似合わず、初めから終わりまで客席は笑いの渦。第三部のアトラクションに予定されている落語がやり難いのではないかと心配するほどでした。

佛 教 讃 歌

いちいちのはな

いちいちのはなのはな
 三十 六百 千億の
 光明でらして ほがらかに
 いたらぬところは さらになし



ご案内コーナー



- ◎ 夏期特別法座 8月17日(木)
午前11時から3時まで
・場所〓シーバル須磨
・会費〓四、〇〇〇円
- ◎ 秋の彼岸法要
9月16日(土)〜9月17日(日)
- ◎ 西大谷納骨参拜
10月15日(日)
- ◎ 本山念仏奉仕団
10月30日(月)〜10月31日(火)
ご家族、お知り合いの方々、お誘い合わせの上ご参拝下さい。

編集後記

先日の門信徒会総会で機関紙の編集のお手伝いをさせていただくことになりました▼閑職の身で人さまのお役に立つことはないと思っておりましたのに、如来様が坊守様を通して私にお命じになったものと有り難くいただいております▼先輩の方々のご尽力を大切に、新しい企画で、皆様に喜んでいただければ幸いです。(森本)